

滿鐵研究

2009 No3



滿鐵資料研究分會主管 北京交通大學圖書館主辦

目錄

Contents

特稿

由《满铁调查月刊》引发的话题 01

動態

满铁国际研讨会在新瀉大学召开 04

書評

《满铁一览》简介 05

譯林

南满洲铁道株式会社年表 06

圖庫

满铁总裁签发的股票 28

满铁时期使用的物品 29

雜俎

满铁的列车时刻表 30

滿鐵研究

MAN TIE YAN JIU

主管：满铁资料研究分会

主办：北京交通大学图书馆

主编：韩宝明

顾问：沈友益

执编：许 勇

编辑：《满铁研究》编辑部

邮箱：yxu1@bjtu.edu.cn

地址：北京交大图书馆 611 室

邮编：100044

电话：010-51688518

期次：2009 No3（总第3期）

日期：2009年9月28日

网址：[lib.njtu.edu.cn/bjtu/](http://lib.njtu.edu.cn/bjtu/mt/index.html)

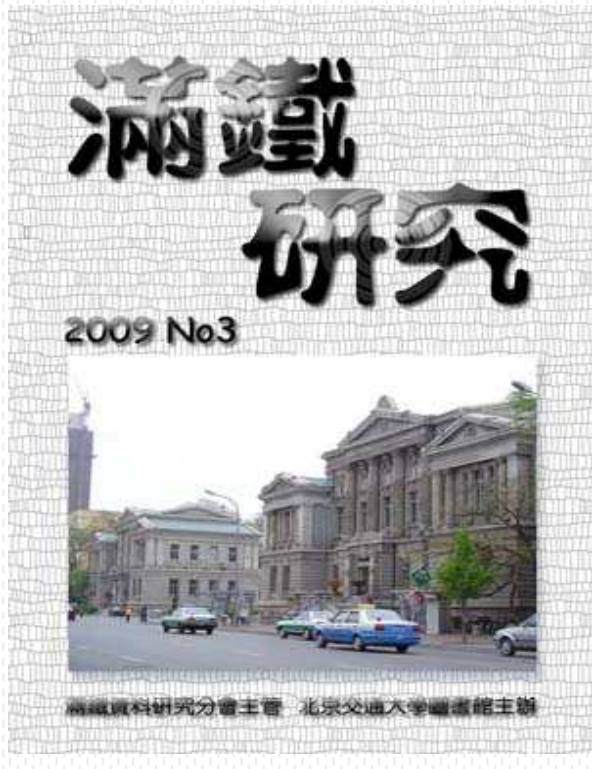
mt/index.html

徵文啓事

《满铁研究》是一份由中国近现代史史料学学会满铁资料研究分会主管，北京交通大学图书馆主办的史学季刊。传递信息、交流学术，揭示历史、畅想未来是《满铁研究》的办刊理念和既定目标。本刊设简讯、动态、特稿、书评、文摘、论坛、图库、译林、杂俎等栏目。欢迎海内外满铁研究领域的专家和爱好者为本刊赐稿。

版權聲明

《满铁研究》刊载之文字和图片，其版权归作者所有。凡转载、摘编本刊内容，请注明“转摘自《满铁研究》”，并按规定向作者支付稿酬。否则本刊将追究违反规定者的法律责任。



由《滿鐵調查月報》引發的話題

——滿鐵調查部及其發行的期刊

許勇 編譯

《滿鐵調查月報》是由南滿洲鐵道株式會社（簡稱滿鐵）發行的一本期刊，出版的起止年代為昭和 6 ~ 10 年（1931 ~ 1944 年），起止卷期為第 11 卷 9 期 ~ 第 24 卷 2 期。談到《滿鐵調查月報》，不能不提及兩個相關的話題，即滿鐵調查部和滿鐵出版的期刊。

滿鐵調查部設立於明治 40 年（1907 年），是一個隸屬於滿鐵的調查機構。在滿鐵存續的近四十年間，它旗下的調查部門無論是歸屬還是名稱均幾經變更，具體沿革為：1907 年在瀋陽總部創建調查部，1908 年調查部改

稱調查課，同年東京分部設立東亞經濟調查局及滿洲與朝鮮歷史地理調查部，1927 年成立臨時經濟調查委員會，1932 年新設經濟調查會，調查課改稱資料課，1936 年經濟調查會與資料課合併成立產業部，1938 年產業部改稱調查部，1939 年調查部、東

亞經濟調查局、中央試驗所及瀋陽圖書館等合併成所謂的大調查部，1943 年調查部改編成調查局並遷至新京（今長春）。

滿鐵調查部是由首任總裁後藤新平一手策劃並籌建的情報機關，起初調查和研究的範圍和對象，僅限於中國東

北地區與滿鐵經營相關的政治、經濟、地理等原始信息。隨著日本侵華的深入和擴大，滿鐵調查部的“調查”不再拘泥於以往的经济、社會、文化、民俗等分野，其無孔不入的觸角已經滲透到包括政治、外交、軍事等各個領域，範圍也擴展到整



个中国以及相邻的朝鲜、俄罗斯等国家。

满铁的调查人员成份复杂，其中不少人是日本国内失意的浪人和左翼分子。由于他们的某些活动触犯了日本军方，曾发生过两起调查人员被拘捕的事件，其调查活动受到限制。

它是当时日本最具实力的智囊机构，人们常常这样形容满铁调查部。即便是在日本战败、满洲国灭亡、满铁解体之后，那些满铁调查部出身的调查员们，仍有不少人依然活跃，并成为日本政、财、学界名人。1958年，通产省创建的亚洲经济研究所，也是仿照满铁调查部的模式而设计的。

满铁调查部涉猎的领域可谓五花八门，其主要调查活动有：满洲及朝鲜历史地理调查（1908~1914年）、华北资源调查（1935~1936

年）、冀东农村实地调查（1936年）、中国抵抗力调查（1939~1940年）、日本满洲中国通货膨胀调查（1940~1941年）、华北农村习性调查（1940~1944年）、华中习性调查（1940~1943年）、南方占领地调查（1942年后）等。

满铁调查部在展开广泛调查的同时，还出版了多种期刊。除了东亚经济调查局发行的杂志，调查课、经调会、产业部、调查部、调查局时期发行的期刊包括：《调查时报》（调查课 1919年1月~1930年1月）、满蒙事情（调查课 1930年2月~1931年8月）、满铁调查月报（调查课—调查局资料课 1931年9月~1944年2月）、满洲经济年报（经济调查会—产业部 1933年版~1935年版）。

满铁北京公所及上

海事务所发行的期刊包括：北京满铁月报（北京公所研究室 1924~1929年）、满铁支那月誌（上海事务所研究室 1929~1933年）、上海满铁季刊（上海事务所 1937年）。

满铁各图书馆发行的期刊计有：书香（大连图书馆 1929~1944年）、购书月报（奉天图书馆 1935~1943年）、北窗（哈尔滨图书馆 1939~1944年）。

上述连续出版物中，尤以调查课编辑的《调查时报》、《满蒙事情》和《满铁调查月报》最为系统和持久，从1919年《调查时报》第1卷第1期到1944年《满铁调查月报》第24卷第2期，这份满铁的核心期刊居然连续出版了25年。这三份虽名称各异，却一脉相承的刊物，其卷期号与出版年具体如下表：

序列次	期刊名	卷期号	出版年
1	調査時報	1卷(1~6号)	1919~1920
		2卷(1~10号)	1922
2	調査時報	3卷(1~11号)	1923
3	調査時報	4卷(1~12号)	1924
4	調査時報	5卷(1~12号)	1925
5	調査時報	6卷(1~12号)	1926
6	調査時報	7卷(1~6号)	1927
7	調査時報	7卷(7~12号)	1927
8	調査時報	8卷(1~6号)	1928
9	調査時報	8卷(7~12号)	1928
10	調査時報	9卷(1~12号)	1929
11	調査時報	10卷(1号)	1930
	満蒙事情	10卷(2~12号)	
12	満蒙事情	11卷(1~8号)	1931
		11卷(9号)	
13	満鉄調査月報	11卷(10~12号)	1931
14	満鉄調査月報	12卷(1~6号)	1932
15	満鉄調査月報	12卷(7~12号)	1932
16	満鉄調査月報	13卷(1~6号)	1933
17	満鉄調査月報	13卷(7~12号)	1933
18	満鉄調査月報	14卷(1~6号)	1934
19	満鉄調査月報	14卷(7~12号)	1934
20	満鉄調査月報	15卷(1~6号)	1935
21	満鉄調査月報	15卷(7~12号)	1935
22	満鉄調査月報	16卷(1~4号)	1936
23	満鉄調査月報	16卷(5~12号)	1936
24	満鉄調査月報	17卷(1~9号)	1937
25	満鉄調査月報	17卷(10~12号)	1937
26	満鉄調査月報	18卷(1~6号)	1938
27	満鉄調査月報	18卷(7~12号)	1938
28	満鉄調査月報	19卷(1~6号)	1939
29	満鉄調査月報	19卷(7~12号)	1939
30	満鉄調査月報	20卷(1~6号)	1940
31	満鉄調査月報	20卷(7~12号)	1940
32	満鉄調査月報	21卷(1~6号)	1941
33	満鉄調査月報	21卷(7~12号)	1941
34	満鉄調査月報	22卷(1~12号)	1942
35	満鉄調査月報	23卷(1~7号)	1943
36	満鉄調査月報	23卷(8~12号)	1943
37	満鉄調査月報	24卷(1~2号)	1944

资料来源：<http://ja.wikipedia.org> 及 <http://www.yushodo.co.jp>

“近代中國與滿鐵——滿鐵史研究現狀及展望” 國際研討會在日本新潟大學召開

許勇 編譯

「近代中国与满铁——满铁史研究现状及展望」国际研讨会，于2009年2月8~9日，在日本新潟大学举行。此次研讨会由“环东亚地区网群的展开与构造实证研究”课题组（新潟大学赞助研究经费）和新潟大学人文社会教育科学系主办，新潟大学人文学院、新潟大学人文社会教育科学系暨环东亚研究中心协办。

2月8日上午10时，研讨会在新潟大学综合教育研究大楼一层会议室正式开始，首先由新潟大学研究生院现代社会文化学教授井村哲郎致开幕辞，之后的发言者及其话题依次为：冈部牧夫（满铁史研究的课题）、宇都宫大学教授伊藤一彦（满铁研究的历史与课题）、京都大



学人类及环境学教授江田宪治（关于满铁管辖的企业）。下午发言的学者及其题目分别是：中国吉林省社会科学院满铁资料馆武和平（中国满铁研究之现状）、下关市立大学经济系教授饭塚靖（满铁自然科学类调查机构之研究现状及课题）、九州国际大学社会文化研究所客座研究员山本裕（满铁与化学技术开发）、庆应大学经济系教授柳沢游（满铁与大豆市场）、新潟大学教授井村哲郎（满铁与情报活动）、长冈大学经济经营系教授儿嶋俊郎（满铁经营与港湾）。

2月9日上午，研讨会继续，发言者及其题目次第为：庆应义塾大学名誉教授松村高夫（满铁调查部史再考）、电影专修大学讲师平山勉（从股份公司制度看满铁调查的导向与制约）、庆应义塾大学经济系讲师江田いづみ（满铁与殖民地医学）。

发言结束后，会议进入一般性讨论阶段。最后，由新潟大学人文学系主任关尾史郎致闭幕辞。

资料来源：human.niigata-u.ac.jp

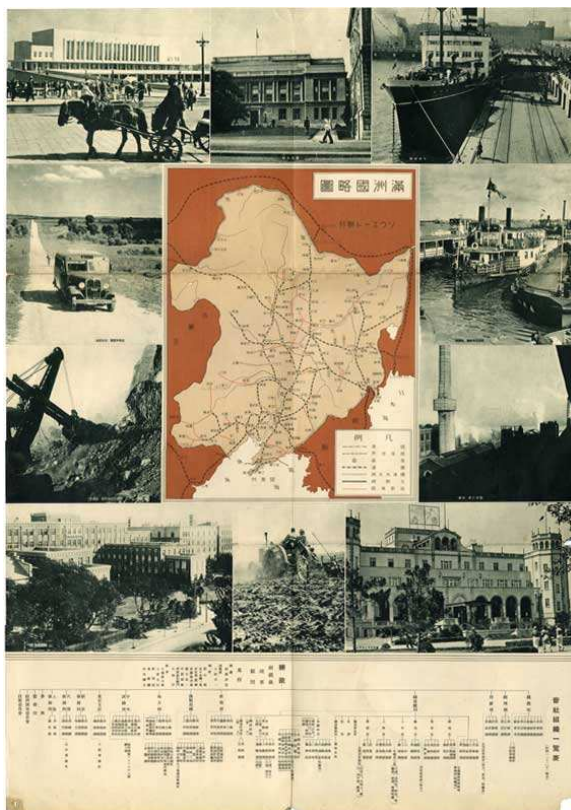
《满铁一览》简介

许勇 编译

《满铁一览》是由南满州铁道株式会社（简称满铁）编辑的手册，发行年代是昭和12年（1937年）。

这份宣传满铁的册子为双面印刷，一面有满洲国略图、满铁组织图以及多幅照片，内容涉及满铁各经营实体，如车站、码头、煤矿、炼油厂、医院、农场及旅馆等。另一面有满铁概况（文字）及由英文字母M和铁轨构成的满铁标志。其中的M取自满铁英译名（The South Manchuria Railway Company）中的Manchuria。

资料来源：奈良县立图书情报馆



南滿洲鐵道株式會社年表

(1894~1957)

许勇 译注

1894年（光緒20年、明治27年）

7月25日、日清戦争（甲午戦争）勃発¹

1895年（光緒21年、明治28年）

4月17日、日清「下関条約（馬関条約）調印²

4月23日、露³、仏⁴、独⁵三国、日本の遼東半島割譲に対して干涉

11月8日、日清「遼南条約」調印、清が遼東半島を奪還

1896年（光緒22年、明治29年）

6月3日、清露「御敵相互援助条約」、即ち「清露密約」調印

9月8日、清露「東省鐵路公司合弁⁶合同規定」調印

1897年（光緒23年、明治30年）

3月1日、支那東省鐵路公司設立

1898年（光緒24年、明治31年）

3月27日、清露「旅大租地条約」調印

5月7日、清露「続訂旅大租地条約」調印

7月6日、清露「東省鐵路公司続訂合同」調印、東三省鐵道南滿洲支線建設を議決、同月に着工

1900年（光緒26年、明治33年）

10月、露西亜帝国、東三省を占領

1901年（光緒27年、明治34年）

12月4日、華興利公司与撫順炭鉱公司、撫順炭田の採掘を開始

1902年（光緒28年、明治35年）

11月3日、南滿洲支線ハルビン⁷・旅順間の工事⁸が完成

1903年（光緒29年、明治36年）

1月、南滿洲支線臨時營業の開始

7月1日、東三省鐵道全線が正式に營業開始

¹ 爆发

² 签订

³ 俄国

⁴ 法国

⁵ 德国

⁶ 共管

⁷ 哈尔滨

⁸ 工程

1904年（光緒30年、明治37年）

2月8日、日露戦争勃発

2月、露軍、撫順炭鉱を強襲、占領

5月25日、日本、野戦鉄道提理部を組織

7月、野戦鉄道提理部、大連からの南満洲支線を逐次、狭軌⁹に改修

8月10日、日本軍の臨時鉄道大隊、不法に安奉軽便鉄道の建設に着手

1905年（光緒31年、明治38年）

3月10日、日本軍、撫順を占領、撫順採炭所を設置

4月11日、日本軍、華興利会社の千金寨炭鉱を占領

9月5日、日露「ポーツマス¹⁰条約」調印、露国、旅大租借権及び南満洲鉄道とその他の付属権利、財産及び炭鉱を日本に譲渡¹¹

9月26日、日本、関東総督府設立

10月12日、日本首相・桂太郎と米国鉄道界の巨頭・ハリマン¹²、南満洲鉄道覚書調印

10月23日、日本、桂・ハリマン覚書¹³廃棄

10月30日、日露「日露両軍撤兵手続及び鉄道引き渡し順序議定書」調印

12月22日、日清、北京会議で「会議東三省事宜正約」とその「付約」調印

1906年（光緒32年、明治39年）

1月、日本政府、満洲経営委員を任命、委員長に児玉源太郎を任命

2月～3月、清国政府、英・米が日本の東北に於ける軍管理に抗議

4月24日、清国政府が日本大使に外交文書を提出、撫順炭鉱¹⁴の返還を要求

5月22日、日本、伊藤博文「満洲問題協商会議」開催

6月7日、日本天皇、勅令第142号をもって南満洲鉄道株式会社設立につき公布

7月2日、日本政府「遼東租借地関税問題」の報告を可決、大連を自由港として開放する旨決定

7月13日、日本政府、児玉源太郎を満鉄設立委員長に任命、同時に設立委員80人を任命

7月25日、日本政府、陸軍大臣・寺内正毅を満鉄設立委員長に任命（児玉源太郎、同24日死亡）

7月31日、日本政府、旅大租借地に関東都督府設置

8月1日、日本政府の外務、大蔵、逓信の3大臣、秘鉄第14号をもって満鉄設立に関する命令書を設立委員長に下令、日露の南満洲鉄道に関する引き渡し¹⁵が全部完了

8月24日、日本公使、中国の満鉄設立に関する株式の応募に対する応諾を照会

⁹ 窄軌

¹⁰ 朴次茅斯

¹¹ 转让

¹² 哈里曼（美国铁路大亨）

¹³ 备忘录

¹⁴ 煤矿

¹⁵ 移交

- 9月10日、満鉄事務所を設立、第1回満鉄株¹⁶の募集を行う
- 9月、横浜正金銀行へ、日本政府から東北に於ける日本銀行券の発行権の付与
- 10月3日、日本、鉄道付属地内に警務署を設置
- 11月10日、清国政府、初めて¹⁷日本の満鉄設立、関係条約違反に対し抗議
- 11月11日、南満鉄道すべて¹⁸を狭軌に改修
- 11月13日、後藤新平、初代満鉄総裁兼関東都督府顧問に就任、日本内閣総理大臣が満鉄総裁に秘密命令を下達
- 11月26日、南満洲鉄道株式会社設立大会
- 11月27日、満鉄、本社を東京に設置
- 12月8日、日本大蔵大臣、満鉄総裁と社債発行に関する協定に調印

- 1907年（光緒33年、明治40年）
- 3月5日、満鉄本社を大連に移し、東京に支社を設置
 - 4月1日、満鉄は鉄道提理部、陸軍運輸部、陸軍經理部から鉄道、炭鉱、埠頭及び動産、不動産を引き継ぎ、正式開業
 - 4月15日、中日『新奉、吉長鉄道協約』調印
 - 4月23日、満鉄本社に総務、調査、運輸、鉱業、地方など5部を設置
 - 5月25日、満鉄総裁・後藤新平、北京の清朝廷を訪問
 - 6月4日、満鉄、日本海軍から用地及び設備を引き継ぐ
 - 6月10日、満鉄、奉天に満鉄公所を開設
 - 7月21日、満鉄と東清鉄道『南満東清鉄道接続協約』調印
 - 7月23日、満鉄、ロンドン¹⁹で第一次英ポンド²⁰社債400万ポンド発行
 - 7月30日、日露、第一次協定と密約で、南北満洲勢力範囲を区分
 - 7月～10月、満鉄地方部は瓦房店、大石橋、遼陽、奉天、鉄嶺、公主嶺及び長春に事務所を設置（翌年12月、經理係と改称）
 - 9月28日、満鉄『付属地居住者規約』を公布、住民に対し、不法に課税
 - 10月、大連市で電力供給営業開始
 - 11月3日、大連で『満洲日日新聞』発行

- 1908年（光緒34年、明治41年）
- 3月9日、大連港拡張工事に着手
 - 4月29日、後藤新平、東三省総督の徐世昌を訪問
 - 5月15日、後藤新平、ペテルブルグ²¹を訪問、ロシア²²皇帝に謁見、東清鉄道副総裁のウエンサイルと会見
 - 5月31日、南満鉄道幹、支線標準軌道開通
 - 6月、満鉄、奉天電灯営業所開設
 - 8月、満鉄、大連と上海間に定期航路を開く
 - 9月、東京支社内に東亜経済調査局を設置

¹⁶ 股票

¹⁷ 首次

¹⁸ 全部

¹⁹ 伦敦

²⁰ 英镑

²¹ 圣彼得堡

²² 俄罗斯

9月14日、東三省総督の徐世昌、大連に赴き、満鉄本社を返礼として訪問
 9月25日、日本政府、対外政策基本方針を確定、中国に対し東三省六案交渉を示し、これを実施する事を決定
 10月5日、日中『南満京奉鉄道連絡協約』調印
 10月、満鉄撫順機械工廠落成
 11月3日、満鉄と東三省総督、日中合弁の清和公司を設立、南満、東清第一次連絡運輸会議
 11月、撫順発電廠、電力の供給を開始
 11月30日、日米、高平・ルート文書交換
 12月15日、満鉄、電気作業所を開設、その下に大連電灯営業所と大連発電所を設置、さらにガス²³作業所を設置
 12月19日、中村是公、第二代満鉄総裁に就任（後藤新平は7月14日、通信大臣に就任）
 十二月、満鉄、第一次人員削減の実施

1909年（宣統元年、明治42年）

4月27日、満鉄、営口水道電気会社株を購入
 5月1日、満鉄公所を奉天公所に改称
 6月21日、満鉄、会計通則（7月19日、総理大臣批准）を制定
 7月、日本、満洲独立守備隊6箇大隊を編成、司令部を公主嶺に置く
 8月6日、日本、安奉線改修問題につき、最後通牒を發出
 8月18日、日中『吉長鐵路借款細目合同』及び『新奉鉄道借款細目合同』調印
 8月19日、日中『安奉鐵路節略』調印
 8月、満鉄、長春電灯営業所開設
 9月4日、日中『東三省交渉五案条款』及び図們江中韓界務条款調印
 9月、満鉄、電鉄営業所を開設、大連電車を経営
 10月27日、大連・蘇家屯間の複線開通
 10月、相生由太郎、福昌公司を設立、大連埠頭所の求人供給を請け負う
 12月18日、米国务務長官・ノックス、満洲鉄道中立化計画を提示

1910年（宣統2年、明治43年）

1月21日、日本、米国の鉄道中立化計画を拒絶
 4月4日、日中『鴨緑江鉄橋架設協定』調印
 5月1日、満鉄、関東都督府から中央試験所を引き継ぎ、また地質研究所を開設（後に地質調査所と改称）
 7月4日、第二次『日露協定』、『日露密約』調印
 8月22日、日本、朝鮮を併合
 10月、埠頭事務所が営口支所を開設、煙台炭鋳開業
 11月13日、日中合弁鉄嶺電灯局設立

1911年（宣統3年、明治44年）

1月1日、満鉄、安東電灯営業所開設

²³ 煤气

3月、満鉄、営口水道電気会社の半数以上の株を購入
 4月1日、撫順炭鉱大山坑、正式に採炭を開始
 5月12日、日中『撫順、煙台炭鉱細則』調印
 6月15日、満鉄、奉天に南満医学堂を開設
 7月1日、撫順炭鉱東郷坑、正式採炭開始
 8月9日、満鉄沙河口鉄道工廠開業
 9月10日、満鉄『倉庫営業規定』制定、倉庫業の経営を開始
 9月、埠頭事務所が上海支所を開設、上海埠頭経営の実施
 10月、辛亥革命（武昌蜂起）
 10月14日、日中合弁遼陽電灯公司設立
 11月1日、安奉線標準軌道開通
 11月13日、日本首相、満鉄総裁による中国革命党員に対しての秘密裏の操作工作について制止
 12月、鴨緑江鉄橋竣工

1912年（民国元年、明治45年・大正元年）

1月1日、中華民国成立
 3月10日、満鉄、日本人の付属地での水田経営の扶助を決定
 5月31日、営口埠頭の沖仲仕、ストライキの実行
 6月15日、奉天・釜山間、直行列車運行
 7月8日、第三次『日露密約』調印、東西内蒙古勢力範囲を区分
 10月20日、吉長線全線開通
 11月13日、日本外務大臣、駐華公使に対し『対中国外交政策の綱領』の訓令を発令

1913年（民国2年、大正2年）

1月22日、日本政府『南満洲鉄道株式会社監理官処務規定』を制定
 1月、満鉄『付属地商務会通則』を發布、対中国人商人の監督の強化
 4月1日、満鉄、公主嶺産業試験場（後に農業試験場に改称）を開設、熊岳城苗圃を熊岳城分場に昇格
 4月、満鉄教育研究所（旧称、教員講習所）を開設
 5月、鉄嶺商品陳列所設立
 5月29日、日中『日中朝鮮南満往来貨物運輸減税試行弁法』調印
 満鉄、奉天都督・張錫鑾に対し、60万円を貸与
 7月、満鉄、干沖漢を奉天公所囑託²⁴に招き、毎月200米ドル²⁵を賦与
 7月12日、中国第二次革命
 10月5日、日中『借款修造鉄道予約辦法大綱』（満蒙五線交換公文）調印
 10月6日、日、英、露、袁世凱政府を承認
 12月19日、野村龍太郎、第三代満鉄総裁に就任

1914年（民国3年、大正3年）

2月4日、日本陸軍省『南満洲鉄道株式会社軍属服務要項』制定

²⁴ 顧問

²⁵ 美元

2月5日、満鉄、内蒙古の科爾沁左翼後旗、親王・阿穆爾靈圭に対し8万円の貸与

4月9日、満鉄、日本人の付属地外での農耕地購入に対する資金援助の決定

5月1日、日本国鉄、鮮鉄、安奉線三線の連絡運賃の実施を開始

5月7日、満鉄、内蒙古の昭烏達盟、巴林王・札鳴爾に対し2万円の貸与

6月13日、日本政府、第三国の「満蒙」での鉄道利権獲得計画と日本が有する「特殊権益」問題につき声明を発表

7月14日、満鉄、個人名義で中日合弁の振興鉄鉱会社の設立を申請、鞍山鉄鉱の採掘の開始

7月15日、中村雄次郎、第四代満鉄総裁に就任

8月1日、大連大和ホテル²⁶新館開業

9月2日、日本軍、山東半島に上陸

10月1日、満鉄株、東京、大阪、名古屋の定期株式取引場に上場

10月14日、満鉄、日本政府に対し満鉄が山東の鉄道、鉱山、港湾及び海運の経営管理を担当することを要求

11月、満鉄撫順炭鉱、蒙特ガス発電工場を設置

1915年（民国4年、大正4年）

1月18日、日本、中国に対し二十一カ条の要求の提示

2月11日、大連汽船株式会社設立

3月26日、満鉄理事・藤田虎力、満鉄社員に山東鉄道管理部（日本陸軍省に隷属）を組織させ、膠濟鉄道と漕川炭鉱、金嶺鎮鉄鉱を接管管理埠頭事務所、青島弁事処の設置

4月、撫順炭鉱万達屋斜坑操業開始

5月25日、日中、二十一カ条に調印

10月、撫順炭鉱古城子露天鉄採掘開始、開原交易所信託会社設立

11月、満鉄、日本政府に対し『事業計画意見書』

12月1日、満鉄、各地経理係を地方事務所に改組

12月17日、日中『四鄭鉄道借款契約』調印

12月、満鉄による復州粘土の独占販売開始

1916年（民国5年、大正5年）

1月15日、満鉄、長春商品陳列所開設

3月、日中合弁振興鉄鉱無限会社設立

3月31日、長春交易所信託会社設立

4月14日、撫順炭鉱大山坑、火災発生、中国人坑夫150人死亡

4月17日、振興鉄鉱会社、八鉄区の探鉄許可書を取得

5月1日、大連油脂工業会社設立

5月11日、撫順炭鉱東郷坑500人罷業、逮捕された労働者の釈放を要求

6月、ロシア帝国政府、中東鉄道南部線老少溝以南を日本に売却²⁷することを提案

7月7日、満鉄、大倉組の大新、大興両会社が所有した新丘炭鉱の権利を買収

²⁶ 旅館

²⁷ 出售

- 1 2月4日、満鉄沙河口工場中国人労働者、第一回の罷業²⁸
 1 2月15日、南満洲製糖株式会社設立
- 1917年（民国6年、大正6年）
 1月11日、撫順炭鉱大山坑、大爆発、917人死亡、そのうち中国人労働者²⁹900人
 2月23日、振興鉄鉱公司、八鉱区の採鉱許可書取得
 3月1日、満鉄、哈爾濱公所設立
 3月15日、満鉄、鞍山工場準備係設置
 3月28日、満鉄、奉天に南満中学堂設立
 6月17日、満鉄、日本で初めて社債（第五次社債）を発行
 7月12日、関東都督府、満鉄の施設に関して事前に軍部と協議する必要があることについて満鉄に照会
 7月31日、寺内内閣が「鮮満統二政策を推し進め、拓殖局を新設、併せて関東都督に満鉄事務を統裁させる。中村雄次郎が関東都督に就任、満鉄は総裁を廃止し、理事長を設け、国沢新兵衛が理事長に就任、第五代満鉄首脳となった満鉄、朝鮮総督府の委託を受け、朝鮮鉄道を経営九月、満洲市場株式会社設立
 10月12日、日中『吉長鉄道借款改定契約』調印、満鉄は吉長鉄道代理経営権を取得
 10月、東洋拓殖会社、奉天に支社を設立
 11月、朝鮮銀行、東北で日本金票を統一発行
 12月、日中合弁長春運輸公司成立
- 1918年（民国7年、大正7年）
 1月11日、四鄭鉄道開業
 1月15日、満鉄、北京公所の設立を決定（4月から営業開始）
 満鉄、交渉局鄭家屯弁事処を鄭家屯公所に昇格
 1月25日、満鉄沙河口工場、日中労働者2000人余の同盟罷業
 3月21日、大連埠頭、「怪火」発生、1924年までに31回連続発生
 3月25日、日中共同防敵に関する公文書交換
 4月1日、満鉄、吉林公所を設立
 4月7日、大連工業株式会社設立
 4月8日、南満鉄業株式会社設立、マグネサイト³⁰の加工と販売を独占³¹
 4月11日、満鉄、極東³²運輸組合³³を設立、シベリア³⁴汽船会社に投資、北満の水運を不法に経営
 5月15日、満鉄、鞍山製鉄所を開設
 6月18日、日中『吉会鉄道借款予備契約』調印
 8月2日、日中『吉黒金鉱及び森林借款契約』調印

²⁸ 罢工

²⁹ 工人

³⁰ 菱镁矿

³¹ 垄断

³² 远东

³³ 协会

³⁴ 西伯利亚

8月8日、日本内閣総理大臣、関東都督へ満蒙綿羊の改良と繁殖に関する文書を送付

8月15日、日本、北満へ出兵

9月24日、日中、満蒙四鉄道に関する公文書交換、満蒙四鉄道借款予備契約調印（9月28日）

9月25日、大連製油株式会社設立

10月7日、満鉄沙河口工場、中国人労働者2000人余、1週間罷業

10月、撫順炭鉱龍鳳坑採炭

11月20日、蘇家屯から奉天に至る複線開通

12月10日、満鉄と開深鉱務局が石炭販売³⁵の取り決め³⁶調印

12月27日、満蒙毛織株式会社設立

1919年（民国8年、大正8年）

1月9日、日米五カ国が連合軍活動地域で、中東鉄道及びシベリア鉄道の監督案を議定

4月12日、日本、関東都督府を撤廃、それぞれ関東庁と関東軍司令部を設立
関東庁が満鉄の直接監督機関であり、関東軍司令部は鉄道守備隊を管轄

4月12日、満鉄、社長制に変更、野村龍太郎が社長に就任（第六代満鉄首脳）

4月、満鉄、ニューヨーク³⁷事務所開設

8月、南満鉄道沿線の貨物積み降ろし³⁸労働者の全線同盟罷業計画が壊滅

9月8日、日中『四挑鉄道借款契約』調印

11月、満鉄消費組合設立

11月26日、日中合弁蒙古産業公司設立

12月1日、満鉄、大豆混合保管制度を実行

12月21日、満鮮坑木株式会社設立

1920年（民国9年、大正9年）

1月10日、東亜土木企業株式会社設立

1月、満鉄、中国人の鉄道付属地での借地、建物の建造を制限

3月、満鉄、第一次増資、資本金が2億円から4億4千万円に増大

3月20日、湯崗子温泉株式会社設立

4月、撫順炭鉱新屯坑採炭

5月1日、満鉄沙河口工場、日中労働者2565人が人員削減に反対し怠業³⁹、40日間罷業

5月1日、日米銀行団代表、梶原・ラモント公文書交換

5月、満鉄、第二次の大規模な人員削減を開始

6月3日、窯業試験工場、中央試験所から分離独立

7月、満鉄と関東庁が満蒙文化協会を設立

日本参謀総長『満鉄会社に対する軍事に於ける希望に関して』を提出

³⁵ 煤炭销售

³⁶ 协议

³⁷ 纽约

³⁸ 装卸

³⁹ 怠工

- 9月、營口交易所信託会社設立
 10月15日、列強の対中新借款団成立
 12月24日、撫順炭鉱、搭連炭鉱を合併
- 1921年（民国10年、大正10年）
 1月24日、満鉄、日米合弁による満洲製鋼所計画を提出
 2月1日、満鉄、米国記者のミリトをニューヨーク事務所嘱託に招き、満鉄のための宣伝活動に利用
 2月4日、満鉄、阿金溝炭鉱の石炭独占販売権を取得、鉱主の周文貴に25万円を貸与
 5月13日、日本の原内閣、満蒙政策を可決⁴⁰
 5月17日、日本政府「張作霖に対する態度」の決定を採択⁴¹
 5月31日、早川千吉郎、満鉄社長に就任（第七代満鉄首脳）
 6月18日、満鉄監事会成立
 7月19日、満鉄、ロンドンで第一九次社債400万ポンドを発行
 7月20日、満鉄とロシア商人、シェフチェンコ⁴²とが大興安嶺森林事業共同経営契約に調印
 7月、奉天交易所信託会社設立、日中合弁撫奉送電所成立
 9月、鞍山製鉄所、還元焙焼法の研究に成功
 10月16日、鞍山不動産信託株式会社設立
 11月、満鉄高級社員、日本の満蒙政策と満鉄の経営方針に関する意見書を発表
- 1922年（民国11年、大正11年）
 1月17日、満鉄、農務課を設置
 1月20日、東亜勸業株式会社設立
 1月、中国国有鉄道、南満鉄道経由で中東鉄道との旅客連絡運送を開始
 2月6日、ワシントン⁴³会議、九カ国条約調印
 2月18日、満鉄、南満洲工業専門学校を設立
 3月、鞍山桜桃園採鉱所、労働者600人が10日間罷業、満鉄、沙河口技術研究所を設立
 5月10日、南満医学堂、南満洲医科大学に昇格
 5月14日、張作霖、東三省独立宣言を発表
 6月、南満鉄道・中東鉄道第七回連絡運輸会議
 6月25日、日中露合弁札免採木公司設立
 7月1日、満鉄、上海航路を大連汽船会社に譲渡⁴⁴
 7月26日、満鉄、齊齊喀爾公所を開設
 7月28日、大連火災海上保険株式会社設立
 8月8日、満鉄、米国人アリン・アイアルランを特別顧問に招く
 9月、満鉄調査課、挑南派出所を設置

⁴⁰ 批准

⁴¹ 採用

⁴² 舍甫琴科（人名）

⁴³ 华盛顿

⁴⁴ 转让

- 10月24日、川村竹治、満鉄社長に就任（第八代満鉄首脳）
 11月、撫順大官屯発電所発電開始、哈爾濱日日新聞発行
- 1923年（民国12年、大正12年）
 2月、東亜運送株式会社設立
 3月10日、北京政府、二十一カ条の廃止を声明、返還を要求
 3月15日、満洲紡績株式会社設立
 3月19日、満鉄、哈爾濱スチエドアルスチ商会に借款を供与
 3月23日、撫順炭販売会社設立
 4月21日、満鉄、哈爾濱公所と哈爾濱運輸事務所を合併し、哈爾濱事務所を設立、その中に調査課を新設、満鉄、東北満とシベリア東部で創設すべき事業案を制定
 5月7日、山東鉱業株式会社設立
 8月24日、満鉄、華勝炭鉱のすべての権利を買収⁴⁵
 11月1日、四挑鉄道完成
 11月、満鉄、日本政府に『満蒙鉄道修築促進に関する問題』の建議書を提出
 11月27日、満鉄、樺甸韓家と財政借款契約に調印、韓家林場の伐採権を取得
- 12月2日、満鉄沙河口工場労働者を中心とする中華工学会成立
 12月5日、満鉄と関東軍艦理部は奉天十間房陸軍占有地売買契約に調印
 12月6日、撫順楊柏室採炭所の1400人の労働者が1日罷業
- 1924年（民国13年、大正13年）
 2月19日、満鉄、埠頭事務所上海支所を撤廃、上海事務所を設立
 4月3日、撫順炭鉱万達屋採炭所労働者900人が3日間罷業、怠業
 4月、東三省交通委員会成立
 5月31日、中ソ⁴⁶、中東鉄道暫定管理協定調印
 6月4日、満蒙毛織会社労働者600人が20日間罷業
 6月22日、安広伴一郎、満鉄社長に就任（第九代満鉄首脳）
 6月23日、調査課挑南派出所、挑南公所に昇格
 7月1日、四挑鉄道、正式営業
 7月、撫順炭鉱、労働者に対し指紋採取を開始
 7月11日、満鉄本社課長会議、大連全体幹部の名義で『満鉄の使命に鑑み、われわれの真情を訴える』意見書を発表、満蒙首脳人事を政争の外に置くよう要求
 9月1日、満洲教育専門学校、授業開始
 9月2日、満鉄、張作霖に200万元、呉俊昇に100万元を貸与
 9月3日、日中『挑昂鉄道修築契約』調印
 11月1日、天図軽便鉄道営業開始
- 1925年（民国14年、大正14年）
 1月3日、満洲紡績会社中国人労働者、300人罷業

⁴⁵ 收购⁴⁶ 中苏

2月24日、満鉄、指紋管理規程を制定
 3月31日、満鉄、朝鮮鉄道に対する経営を解除
 4月17日、昌光硝子⁴⁷株式会社設立
 5月15日、挑昂鉄道、臨時営業
 6月10日、南満医科大学中国人学生、上海労働者を声援して集団退学
 6月、満鉄労働者、ビラ⁴⁸を撒き、差別待遇の廃止を要求
 7月15日、大連窯業⁴⁹株式会社設立
 7月18日、南満洲ガス株式会社設立
 9月16日、満鉄とウスリー⁵⁰鉄道、北満貨物東行南行数量分配協定に調印
 9月22日、満鉄、日本政府に「満蒙鉄道網計画」を報告
 10月1日、満鉄、奉天に獣疫研究所を開設
 10月24日、満鉄と北京交通部『吉敦鉄道修築契約』に調印
 10月30日、満鉄、内モンゴバ林旗札薩克親王・札鳴爾と農業・牧畜及び付帯事業の合弁契約及び付約を結び、林西県黒山屯
 11月、満鉄、盛京時報を買収
 11月10日、金福鉄道公司設立
 12月、関東軍、郭松齡の反奉に干渉

1926年（民国15年、大正15年・昭和元年）

1月、満鉄衛生研究所開業、満鉄、満蒙物資参考館を開設
 2月25日、復州粘土公司設立
 3月、満鉄、四挑、挑昂三線連絡運輸会議決裂
 4月27日、満洲福晶紡績会社の669人の労働者、中華工学会の指導の下で95日間罷業
 6月1日、南満洲電気株式会社設立
 6月、満鉄、日本の製鉄企業と共同で銑鉄⁵¹共同販売組合を結成
 7月、鞍山選鉱工場始業、鞍山二号高炉、再び点火
 8月1日、国際運輸株式会社設立
 9月15日、満鉄社員会成立
 10月15日、福昌華工株式会社設立
 10月、満蒙毛織会社労働者450人、8日間罷業
 12月28日、満鉄派遣の吉林省森林調査隊46人（翌年2月中旬まで）出発
 12月、日本、理不尽にも⁵²中国の打通線修築に反対

1927年（民国16年、昭和2年）

4月1日、満鉄、情報課を設置、満鉄、大豆油混合保管制を実行
 5月28日、日本、山東に出兵
 6月27日、日本、東方会議を招集
 7月7日、日本首相・田中義一、東方会議で対中政策要綱を発表

⁴⁷ 玻璃

⁴⁸ 传单

⁴⁹ 陶瓷

⁵⁰ 乌苏里

⁵¹ 生鉄

⁵² 无理地

- 7月19日、山本条太郎、満鉄社長に就任（第十代満鉄首脳）
 7月24日、中国共産党大連地方委員会、破壊される
 7月、挑昂鉄道、正式営業
 9月、奉海鉄道完成
 10月1日、金福鉄道営業開始
 11月18日、満鉄、臨時経済調査委員会を設立
 11月25日、満洲日日新聞、遼東新報と合併、満洲日報と改名
 11月、打通鉄道開業、満鉄、2000余人を削減
 12月、南満洲旅館株式会社設立
- 1928年（民国十七年、昭和三年）
 1月22日、撫順炭鉱龍鳳坑労働者300余人、警察の暴行に反抗
 2月、満鉄と奉海、連絡運輸協定に調印、満鉄、旅大租借地内で大量に民有地を買収、移民の準備
 3月、満鉄、頁岩製油工場の建設に着手
 3月24日、鞍山鉄鉱大孤山採鉱所で大爆発が発生、死亡6人、重傷1人
 4月9日、蕪順炭鉱大山坑で出水、中国人労働者482人死亡
 5月15日、満蒙新五線建設契約調印
 5月18日、日本政府、適切かつ有効な措置を取って満洲の治安を維持することを声明
 6月4日、日本、皇姑屯事件を引き起こし、張作霖を爆殺⁵³
 6月19日、張学良、奉天省督弁に就任することを宣告
 6月、満鉄、石炭液化法調査委員会を設置
 7月、満鉄と同中公司、江蘇省海州マンガ⁵⁴の鉱石売買及び経営契約に調印
 7月4日、張学良、東三省保安司令に就任
 7月19日、日本、張学良に警告書を提出、東三省の易幟〔張学良の国民党軍帰属〕に反対
 8月20日、大連中華工学会、強制的に解散させられる
 8月、中国共産党撫順特別支部成立、満洲輸入⁵⁵組合連合会設立
 9月15日、奉海鉄道開業（港海鉄道に改称）
 9月、遼東ホテル⁵⁶開業
 10月10日、吉敦鉄道開通
 11月3日、南満洲硝子株式会社設立
 11月、満鉄、500万元で延辺及び吉敦線沿線、満鉄沿線の
 12月15日、呼海鉄道開通
 12月29日、東北易幟。南京国民党政府、張学良を東北辺防司令に任命
 12月、全満鉄傭員連盟準備会『全満鉄傭員同志への撒文』のビラを撒く
- 1929年（民国18年、昭和4年）
 1月26日、煙台炭鉱ガス爆発、中国人労働者225人死亡

⁵³ 炸死⁵⁴ 猛⁵⁵ 进口⁵⁶ 旅馆

- 2月13日、復州鉱業株式会社設立
 2月23日、日本精蟻株式会社設立
 2月、満鉄、敦化農事試作場を開設
 4月1日、満鉄大連病院、分離独立
 4月16日、大連農事株式会社設立
 4月、満鉄、哈爾濱土地房屋会社の所有する土地、建物を買収
 5月8日、満鉄鉄道部、坂本直道を駐パリ⁵⁷特派員に任命
 5月9日、日満倉庫株式会社設立
 5月12日、新民県民衆、七公太塗子勸業会社の日本人の土地占領、村民射殺につき抗議文を発表
 5月15日、吉海鉄道開通
 6月3日、日本、中国国民政府を承認
 6月14日、東北地方当局、中東鉄道回収を強行
 6月15日、満鉄と招遠鉱業公司、山東省招遠金鉱経営借款契約に調印
 7月2日、東亜経済調査局、財団法人として分離独立
 7月3日、満鉄、東洋窒素工業株式会社30%の株を買収
 阪神築港株式会社設立
 7月4日、昭和製鋼所設立
 7月31日、満鉄、華昌公司の名義で瘡石鉄道借款及び工事請負契約に調印(9月25日、南京政府外交部が契約無効と宣告)
 8月14日、仙石貢、満鉄総裁に就任(第十一代満鉄首脳)
 8月、中国共産党撫順特別支部、破壊される
 10月、満鉄、海倫農事試作場を開設、遼寧省国民外交協会、満鉄を暴露するビラを撒く
 12月22日、中ソ、中東鉄道に関する協定に調印
 12月、満鉄撫順製油工場、頁岩油生産開始
- 1930年(民国19年、昭和5年)
 1月29日、日本政府、満鉄経営改革第二回協議会を招集、
 3月、齊克鉄道開通
 4月、北寧鉄道局、葫蘆島港を修築
 5月、鞍山三号高炉、点火
 6月14日、満鉄、機構を整頓し、職工を削減
 6月、満鉄労務課『将来の満洲労働問題に対する対策案』を制定
 7月、甘井子石炭埠頭、使用開始、秘密赤色労働組合⁵⁸、蕪順炭鉱で成立
 11月27日、吉海、瀋海線運賃引き下げ
 11月、中国共産党撫順県委員会(10月成立)、破壊される
- 1931年(民国20年、昭和6年)
 1月25日、北寧、瀋海、吉海三線、貨物連絡運輸実施
 3月26日、中国、油頁岩採掘権回収を通告
 3月31日、満鉄、初めての欠損

⁵⁷ 巴黎

⁵⁸ 工会

6月13日、内田康哉、満鉄総裁に就任（第十二代満鉄首脳）
 7月、満鉄、機構を縮小し、人員を大量に削減（2468人）
 8月1日、満鉄、ニューヨーク事務所⁵⁹撤廃を決定
 9月18日、関東軍、柳条湖で南満鉄道爆破事件を引き起こす
 9月19日、満鉄、臨時時局事務所を開設、関東軍に協力
 9月21日、満鉄、吉長鉄道を無理に管理、瀋海線撫順駅を接收
 10月26日、満鉄総裁・内田康哉が関東軍司令官・本庄繁と会見
 10月23日、東北交通委員会成立、満鉄理事・十河信二が首席顧問に就任
 11月1日、吉長鉄道と吉敦鉄道を合併、吉長吉敦鉄道管理局に改名

1932年（民国21年、昭和7年、満大同元年）
 1月20日、満鉄、鉄道経営の経営組織委任を決定
 1月26日、満鉄、経済調査会を設置、十河信二が委員長に就任
 1月、満鉄齊齊哈爾公所が齊齊哈爾事務所と改名
 2月10日、満鉄、ニューヨーク事務所存続を決定
 3月1日、東北行政委員会、満洲国建国宣言を發表
 3月10日、溥儀、本庄繁への売国契約に署名、関東軍司令官と満鉄総裁が満洲国鉄道、港湾及び河川の経営及び新建設などに関する協定に調印
 4月11日、日本政府『帝国が満蒙新国家に対する具体的援助と指導に関する決定』を可決
 4月15日、日本政府『満洲国鉄道・港湾・河川に関する処理方針』を決定
 4月22日、リットン⁶⁰調査団、東北へ出発
 6月20日、満鉄経済調査会『満洲経済統制政策要旨』を提出
 7月1日、満洲中央銀行設立
 7月6日、内田康哉、外務大臣に転任
 7月26日、林博太郎、満鉄総裁に就任（第十三代満鉄首脳）
 7月、満鉄、監理局及び臨時建設局を新設、満鉄、松花江航運を接收・経営
 8月5日、関東軍特務部『満洲経済統制根本方策案』を可決
 8月7日、満洲国政府と関東軍、満洲国政府の鉄道・港湾・水路・航空路の管理及び敷設と線路管理に関する協定に調印
 8月8日、日本政府『満洲国指導方針要綱』を可決
 9月15日、日満議定書調印
 9月16日、日本軍、撫順で平頂山惨案を引き起こし、3000余人の住民を惨殺
 11月15日、満鉄、機構調整を決定、監理部、技術局、奉天事務所を撤廃、計画部、鉄路総局と鉄道建設局を新設
 12月1日、満鉄、奉天公所を撤廃、鄭家屯公所が鄭家屯事務所と改名

1933年（民国22年、昭和8年、満大同2年）
 1月10日、関東軍司令官、委託経営及び新建設協定につき満鉄に関統命第一号指令を発令
 2月9日、満洲国、国有鉄道経営建設委託契約、第一次建設請負契約調印

⁵⁹ 办事处

⁶⁰ 李頓（人名）

- 3月1日、満洲国『満洲国経済建設要綱』を公布、満鉄、奉天に鉄路総局を設立、満国有鉄道を経営、大連に鉄道建設局を設立、新鉄道建設を管理
 3月6日、満鉄第二次増資、資本金が4億4千万円から8億円に増加
 3月16日、関東軍特務部、満鉄副総裁に『満鉄改組案』を提出
 3月20日、満鉄、長距離バス⁶¹営業を開設
 3月、撫順炭鉱、老頭溝炭鉱を接收・経営
 3月31日、満鉄、元東北航務局、東北江運処、広信航業処、東北造船所、松黒両江郵船局を接收、哈爾濱水運局を設立
 4月18日、哈爾濱航業連合会成立
 5月30日、満洲化学工業株式会社設立
 6月1日、昭和製鋼所、鞍山で開業
 8月、満鉄齊齊哈爾公所、大黒河及び海拉爾に派出所を設立、対ソ情報網を建設
 8月31日、敦図鉄道、正式営業
 10月1日、満鉄、北鮮鉄道管理局を設立、北鮮鉄道委託経営を引き受ける
 10月21日、日満マグネシウム⁶²株式会社設立
 10月28日、満鉄社員会、満鉄改組反対の宣言を発表
 10月、撫順炭鉱、炸子窯炭鉱（瓦房店）の開発に着手
 11月28日、関東軍、満鉄に偽満国営自動車運輸業経営を指令
 11月、撫順炭鉱、妨子山（蚊河）炭鉱を経営
 12月1日、海克線、泰克線、拉調線、正式営業
 12月21日、第二次鉄道建設請負契約調印
- 1934年（民国23年、昭和9年、満大同3年・康德元年）
 2月9日、関東軍、満鉄改組案を撤回
 2月13日、満鉄、関係会社の株を開放する根本方針を確定
 2月24日、満洲石油株式会社設立
 3月26日、同和自動車⁶³株式会社設立
 3月30日、日本内閣『日満経済統制方策要綱』を可決
 3月、満鉄、奉天鉄道学院を設立
 4月1日、満鉄、遼陽棉花試験地を開設
 4月20日、第三次鉄道建設請負契約調印
 5月6日、満洲炭鉱株式会社設立
 5月15日、満洲採金株式会社設立
 6月1日、葫蘆島港開港
 6月、満鉄、パリ事務所を設立
 6月27日、満洲国『一般企業に対するの声明』を發布
 7月18日、撫順セメント⁶⁴株式会社設立
 7月23日、満洲大豆工業株式会社設立
 9月1日、拉濱線、正式営業
 9月14日、日本政府、対満関係機関調整、対満事務局設立を決定

⁶¹ 长途汽车

⁶² 镁

⁶³ 汽车

⁶⁴ 水泥

9月26日、大連から長春に至る複線全線開通
 11月1日、大連・長春間「あじあ」⁶⁵号特急列車運行、満鉄、押木宮子付近で札薩克図牛馬試験地を開設
 11月10日、満鉄、石炭液化委員会を設置
 11月30日、満洲電業株式会社設立
 12月1日、北辰線、坂凌線、正式営業、第四次鉄道建設請負契約調印
 12月26日、対満事務局、関東局を正式設立

1935年（民国24年、昭和10年、満康德2年）
 2月25日、満鉄、東亜課を設置
 2月26日、満鉄、経済調査会を満鉄の機構とすることを決定
 3月11日、奉天工業土地株式会社設立
 3月23日、日・満・ソ・中東鉄道譲渡協定に調印
 3月23日、満鉄、哈爾濱鉄道局を設立、元の中東鉄道を経営、哈爾濱経済調査所を設立
 3月、満鉄、哈爾濱鉄道学院を設立
 6月10日、何梅協定調印
 6月19日、満洲鉛鋳株式会社設立
 7月1日、図寧線、正式営業
 7月10日、満鉄、華北の経済開発に参加を決定
 7月15日、日・満、日満経済共同委員会協定に調印
 8月2日、松岡洋右、満鉄総裁に就任（第十四代満鉄首脳）
 8月8日、満鉄、興中公司設立を決定
 8月24日、満洲鋳業開発株式会社設立
 8月31日、長春・哈爾濱間を標準軌間に改造
 9月、満鉄、臨時財産評価整理委員会を設立
 10月30日、関東軍、関東局、満鉄、首脳座談会を招集
 11月1日、北鮮雄羅線開通、羅津港開港、北黒線、京白線、懷索線、正式営業
 11月10日、哈爾濱経済調査所、北満経済調査所と改称
 11月16日、満鉄、天津事務所設置を決定
 12月18日、翼察政務委員会成立
 12月20日、興中公司設立
 12月23日、満洲拓殖株式会社設立
 第五次鉄道建設請負契約調印

1936年（民国25年、昭和11年、満康德3年）
 2月1日、満鉄、運賃改革を実行、遠距離遞減制を採用、内地発特定運賃を制定
 2月21日、満鉄『資金五カ年計画』を発表
 2月25日、日仏対満事業公司設立
 2月29日、満洲林業株式会社設立
 3月31日、南満電気株式会社、大連交通株式会社と改称

⁶⁵ 亚细亚

- 4月1日、牛馬試験地、農事試験場押木営子分場と改称
 4月27日、満洲塩業株式会社設立
 5月21日、満洲曹達⁶⁶株式会社設立
 6月3日、日本政府、勅令第九三号により満鉄社債発行限度を株上納金の二倍に拡大
 6月16日、錦承線全線、正式営業
 6月30日、日本総理大臣、満殖第二〇〇号命令『南満洲鉄道株式会社業務監督規程』を下達
 7月1日、索興線・寧林線、正式営業
 8月2日、濱洲線、標準軌間に改造
 8月、満鉄、石炭液化工場(撫順)を建設
 9月9日、満鮮拓殖株式会社設立
 9月12日、九七〇便列車、濱綏線代馬溝・穆稜間で抗日武装勢力の襲撃により脱線、日本軍死傷者100人
 9月28日、株式会社満洲弘報⁶⁷協会設立
 10月1日、満鉄、機構大改革を実行、鉄道総局を設立、鉄道を統一経営、産業部を設立、産業開発を統一経営、社員身分及日本人職員の賃金⁶⁸待遇を統一
 長春に新京事務局を設立、上海事務所に調査課を増設、鉄道総局の下に鉄道研究所を設置
 満鉄、商事部を分離独立させ、日満商事株式会社を設立
 11月5日、満洲国産業開発五カ年計画現地草案大綱発表
 11月7日、満洲軽金属製造株式会社設立
 11月11日、関東軍、哈爾濱鉄道局内に特別調査機関設置を要求
- 1937年(民国26年、昭和12年、満康德4年)
 3月15日、満鉄パリ事務所、欧州事務所に改称
 4月1日、満洲国、第一次産業五カ年計画の実行を開始
 4月、三裸樹工場開業
 4月30日、満鉄、2800余人を削減⁶⁹
 5月1日、満洲国『重要産業統制法』を公布
 6月18日、濱綏線、標準軌間に改造
 6月、撫順炭鉱、化学工業所を設立
 7月1日、図佳線全線、正式営業
 7月7日、日本軍、盧溝橋事件を引き起こし、抗日戦争開始
 7月14日、満洲国、企画委員会を設置
 8月1日、大連船渠鉄工株式会社設立
 8月21日、満洲映画協会設立
 8月27日、満鉄、天津に華北事務局を設立
 8月31日、満洲拓殖公社設立
 9月1日、満鉄、擦順で製鉄試験工場を建設
 9月4日、満洲豆桿軟漿株式会社設立

⁶⁶ 純碱⁶⁷ 公关⁶⁸ 工资⁶⁹ 裁減

- 10月9日、日本軍、大同炭鉱を侵略し占領、満鉄に経営を委託
- 10月30日、満洲不動産株式会社設立
- 11月5日、日・満『満洲国に於ける治外法権撤廃及び南満鉄道付属地行政権譲渡条約』に調印
- 11月26日、関東軍『満洲国有鉄道業務監督規程』を制定
- 12月1日、虎林線（林ロ－虎林）、全線正式営業、満鉄付属地行政施設を譲渡、地方部及び鉄道警務局を撤廃、奉天鉄道局を設立
- 12月14日、華北臨時政府成立
- 12月15日、二四九便列車、図佳線向陽・龍爪間で襲撃に遭い、脱線⁷⁰
- 12月17日、関東軍、交通監督部を撤廃（12月11日）、横山大佐を首班とする交通監督官を満鉄に派遣
- 12月17日、満洲重工業開発株式会社設立

- 1938年（民国27年、昭和13年、満康德5年）
- 1月27日、満鉄華北事務局、北平に移り、北京事務所を撤廃
 - 2月、満洲国『国家総動員法』を公布
 - 関東軍司令部『満洲国自動車運輸事業拡充統制要綱』を制定
 - 3月2日、満鉄の所有する昭和製鋼所の半数の株及び満洲炭鉱、満洲採金、同和自動車、満洲軽金属製造などすべての株を満洲重工業開発株式会社に譲渡
 - 3月5日、満鉄華北事務局、華北鉄道を接收・管理
 - 3月10日、満鉄、農事試験場、種羊場などを満洲国に譲渡
 - 4月1日、満鉄産業部、調査部に改組、地質調査所を満洲国に譲渡、満鉄新京事務局が新京支社に昇格
 - 5月5日、満洲車輛株式会社設立
 - 7月15日、日本軍、中ソ国境で張鼓峰事件を引き起こしたが失敗
 - 7月16日、満鉄、新たに関係会社の持株開放方針を確定
 - 8月8日、満鉄、北満調査委員会設立を決定
 - 8月17日、日満華連絡運輸協定締結（10月1日から実施）
 - 9月18日、満鉄、鉄道総局を改革（人事局、水運局、自動車局、付業局及び業務課を新設）、本社と鉄道総局の間で兼務制の実施、華北事務局を拡大
 - 10月1日、全東北鉄道貨物に対して単一運賃⁷¹制を実施
 - 11月1日、関東軍、交通監督官制を廃止、参謀部交通室から満鉄に分管、併せて満鉄に『満洲国有鉄道業務監督規程』を提出
 - 承古線、正式営業
 - 11月7日、華北開発と華中振興両公司設立、興中公司解散
 - 11月12日、満鉄、防衛班を設立
 - 11月13日、関東軍司令部、北満水運事業革新要綱を制定
 - 11月30日、満鉄、北満地方鉄道沿線開発五カ年計画及び東満地区軍需食肉涵養計画を実施
 - 12月、満鉄、刀剣製作所を設立、正式に満鉄刀（興亜一心刀）を生産

- 1939年（民国28年、昭和14年、満康德6年）

⁷⁰ 出轨

⁷¹ 运价

- 1月6日、満鉄北方調査委員会に第二部を設立
 1月31日、満鉄の所有する興中公司のすべての株を華北開発株式会社に譲渡
 2月、撫順炭鉱石炭液化工場完成、試運転
 2月23日、満洲生活必需品株式会社設立
 3月24日、大村卓一、満鉄総裁に就任（第十五代満鉄首脳）
 3月28日、満鉄、調査部及び中央試験所を拡大
 4月1日、沙河口研究所、鉄道技術研究所として独立、満鉄上海事務所、臨時南京駐勤員を設立、満鉄、北満江運局を設立、北満水運を独占、撫順炭鉱、機構を拡大、課制を局制に変更
 4月4日、満鉄、新経営方針を制定
 4月8日、満洲国、三大国策—五カ年計画、開拓移民及び北辺振興—を公表
 4月17日、満鉄、華北経済調査所を設立、華北交通株式会社設立、満鉄と華北交通『満華交通統一経営に関する備忘録』を交換
 4月28日、日本参謀本部『満鉄に対する希望事項』を提出、関東軍司令部『（満鉄への）将校派遣方法』を制定
 4月30日、満鉄、張家口経済調査所を設立
 5月11日、関東軍、中蒙国境でノモンハン⁷²事件を引き起こし、壊滅的打撃を受ける（9月15日、停戦協定）
 5月14日、満鉄、各鉄道局機構を拡大、人事課、汽車課、電気課を新設
 5月20日、満鉄、金福鉄道を買収
 6月9日、満鉄、鉄道総局企画委員会を設置
 7月15日、満鉄、新京支社調査室を拡大、北満経済調査所を縮小
 7月21日、吉林人造石油株式会社設立
 8月23日、関東州工業土地株式会社設立
 9月3日、英・仏、独に対し宣戦、第二次欧州戦争勃発。
 10月1日、梅輯線全線、正式営業
 10月21日、満鉄、鉄道経営一万キロ⁷³超過を慶祝
 10月、満鉄、満鉄青年隊を組織、青少年社員に対しファシズム⁷⁴訓練を開始
 本年、満鉄は大東港修築に着工⁷⁵
 11月5日、日本『日満華経済建設要綱』を発表
 12月5日、鉄道総局、用度⁷⁶局を増設
 12月、満鉄、東亜経済調査局を合併
- 1940年（民国29年、昭和15年、満康德7年）
 1月25日、満鉄第三次増資、8億円から14億円に増加、偽満洲国が5000万円の株を購入、理事、監事各一人を推薦
 4月1日、満鉄、「社線」と「国線」の統一決算を実行、上納金を1500万円に決定
 大連埠頭事務所、大連埠頭局に昇格
 5月、撫順炭鉱東製油工場、建設着工

⁷² 诺门罕（地名）

⁷³ 公里

⁷⁴ ファシズム

⁷⁵ 开工

⁷⁶ 补给

6月1日、満鉄、張家口経済調査所を設立、満鉄、牡丹江鉄道工場を設立
 7月1日、満鉄、南京に上海事務所支所を設立、満鉄、北鮮鉄道及び港湾に対する受託経営を解除、朝鮮総督府、雄基・上三峰間鉄道施設と雄基港施設を満鉄に賃貸する

8月、図佳線仏嶺・虎山間（十八日）、追分・弥栄間（二十五日）でそれぞれ鉄道爆破、貨車脱線事故発生

9月14日、満鉄人事移動、大量の人員削減

11月25日、満鉄欧洲事務所、パリからベルリン⁷⁷へ移転⁷⁸

12月1日、綏佳線全線、正式営業

12月16日、興寧線、墨雷線、通臨線、正式営業

12月19日、満鉄、バンコク⁷⁹事務所開設を決定

12月30日、日・満軍警、鉄道部門に大捜査、逮捕の実行

12月、撫順炭鉱「特殊労働者」使用を開始

1941年（民国30年、昭和16年、満康德8年）

2月、日本『日・満・華交通政策要綱』を決定

3月20日、満洲国、経済顧問制を実施、満鉄総裁が満洲国経済顧問を兼任

4月、満鉄、自給農場を開設、満鉄、満洲開拓義勇隊訓練所を設置

6月27日、日本政府、撫順頁岩油の拡大生産に対し資金、材料面で全面支援・提供を決定

7月2日、日本軍部「関東軍特別演習」実施を命令

8月、満鉄、特務委員会を設立

9月2日、鉄遺総局長、男子傭員の代替として女子傭員の採用比率を三対二にすると通告

10月、関東軍、満鉄新京支社内に調査室別班を設立

12月7日、満鉄中央特務委員会第二回会議で、中国人職工に対する連座保証制実施を決定

12月8日、日本、真珠湾を奇襲、英・米に対し開戦

1942年（民国31年、昭和17年、満康德9年）

1月1日、満鉄、貨物運賃の引き上げ

2月27日、日本、撫順炭鉱石炭液化工場の拡張を決定

3月17日、満鉄、軍の要求に応じて南方（タイ⁸⁰、ビルマ⁸¹、香港）への調査人員派遣を決定

4月9日、第一回大陸連絡会議、大連で招集される

4月、満鉄、鉄道総局を拡大、旅客運賃の引き上げ、満鉄、社員制の改正、中国人長期労働者の傭員化

6月1日、鉄道局職制改正（課制を部制に改正、鉄道監理所の設置）

7月、満洲林産化学株式会社設立

7月14日、関東軍、満鉄に対する指示権の強化（勅令第一四二号第二二条の

⁷⁷ 柏林

⁷⁸ 迁址

⁷⁹ 曼谷

⁸⁰ 泰国

⁸¹ 缅甸

改正)

- 9月18日、満鉄、新京支柱の拡大
- 9月21日、第一回調査部事件、関東軍憲兵司令部が満鉄左翼調査員を逮捕
- 10月、満鉄、京濱・濱綏両線複線工事の完成
- 10月、偽満洲国門産業統制法』を公布
- 11月1日、日本、大東亜省を設立、その下に満洲事務局を設立（拓務省を撤廃）、満鉄、各鉄道局に資材部を設立
- 11月5日、齊齊哈爾鉄道工場新工場、機関車修理作業を開始
- 11月19日、第二回大陸連絡会議、北平で招集される
- 12月、偽満洲国『基本国策大綱』を公布

1943年（民国32年、昭和18年、満康德10年）

- 1月22日、満鉄、東亜経済調査局を拡大、積極的に日本軍の東南アジアに対する略奪に協力
- 2月28日、特急「あじあ」号、運行停止
- 3月31日、凶佳線の一部及び虎林線複線化工事完成
- 4月1日、満鉄総務局の下に防衛部を設立、満鉄、鉄道潤滑油工場を設立、擦順炭鉱発電所を満洲電業会社に譲渡
- 4月3日、大連に木造船製作所を設立
- 4月、満鉄、奉山線複線化建設に着手
- 5月1日、満鉄、鉄道総局を撤廃、本部機構を調整、計画管理部門を長春に移転
- 6月1日、大陸鉄道運輸協議会事務局、長春に設立
- 6月4日、第二回調査部事件
- 7月14日、小日山直登、満鉄総裁に就任（第十六代満鉄首脳）
- 8月、満鉄『富錦炭田開発要綱』を制定
- 9月1日、大陸輸送協議会、長春で招集される
- 10月7日、日本参謀本部『満鉄総裁に対する懇談事項』を提出
- 11月1日、撫順炭鉱石炭液化工場、満洲人造石油株式会社と合併、満鉄が後者を経営
- 11月、満洲医薬品株式会社設立
- 12月10日、満鉄、満洲国内での資金調達を決定、満洲中央銀行が満鉄社債を購入
- 12月26日、京濱線老家信号場付近で軍用列車追突事故発生

1944年（民国33年、昭和19年、満康德11年）

- 1月23日、満鉄、昭和製鋼所株の「満業」への譲渡補償として鶴崗炭鉱の接収・管理を決定
- 1月、満鉄、大幅に旅客運賃の引き上げ⁸²
- 2月、満鉄本部機構、事実上の長春への移転、企画室の新設
- 3月1日、満鉄道警護隊、警護軍に変身、軍事部の統轄に帰属
- 4月、満鉄、複線化に必要な軌条を獲得するため、大石橋・二十里台間（19.3キロ）で一方の軌条を撤去、その区間は単線となった

⁸² 上昇

4月6日、満鉄、富錦鉱業所を設立、富錦炭田の採掘開始
7月29日、米機B29が初めて大連、鞍山を空襲
10月1日、安奉線、複線営業開始
10月、奉山線（錦州以西）複線開通
11月15日、新京支社を撤廃、生計局、林業部を設立
11月27日、満鉄、通化鉄道建設事務所を開設
11月30日、濱洲線黒閣駅で重大衝突事故の発生

1945年（民国34年、昭和20年、満康德12年）

1月20日、満鉄臨時株主⁸³総会で、さらに10億円増資の決定
2月1日、満鉄、整備局を設立、防衛部を併合
2月21日、満鉄、経営総力動員会議を招集
3月10日、満鮮鉄道、本土戦軍事運輸を実行
4月1日、満鉄、北鮮鉄道、港湾の一部を獲得
5月1日、鉄道監理所を鉄道監理部と改称、長春、瀋陽及び大連に地区事務局を設立
5月5日、山崎元幹、満鉄総裁に就任（第十七代満鉄首脳）
7月21日、満鉄、局長会議を招集、山崎元幹が「職場が戦場」の標語を提出、建設重点を通化地区に移転することを決定
8月9日、ソ連、対日宣戦、東北へ出兵、満鉄、関東軍大陸鉄道司令官の指揮下に置かれ、臨戦体制に入り、戦闘指揮所を設立
8月14日、中ソ友好同盟条約、中国長春鉄道協定調印
8月15日、日本、無条件降伏⁸⁴
8月20日、満鉄総裁、山崎元幹、日本降伏につき社員全員に布告を発表、国旗の降納式挙行、満鉄総裁、ソ連軍司令官と会見
8月22日、ソ連軍、大連に到着、旅大地区に対し軍事管制を実行
9月22日、中国長春鉄道公司ソ連側代表が満鉄を接收
9月30日、連合軍最高司令部、満鉄の解散を指令
11月19日、元満鉄総裁・山崎元幹、中国長春鉄道副理事長、カルギン中將に『財産管理権移転に関する備忘録』を手渡す⁸⁵

1946年（民国35年、昭和21年）

5月14日、日本人、帰国送還開始

1947年（民国36年、昭和22年）

8月13日、元満鉄総裁・山崎元幹、長春を離れる
8月21日、機関閉鎖命令に基づき満鉄に対する特殊清算の開始
10月1日、元満鉄総裁・山崎元幹、調慶島から日本へ送還

1957年（昭和三十二年）

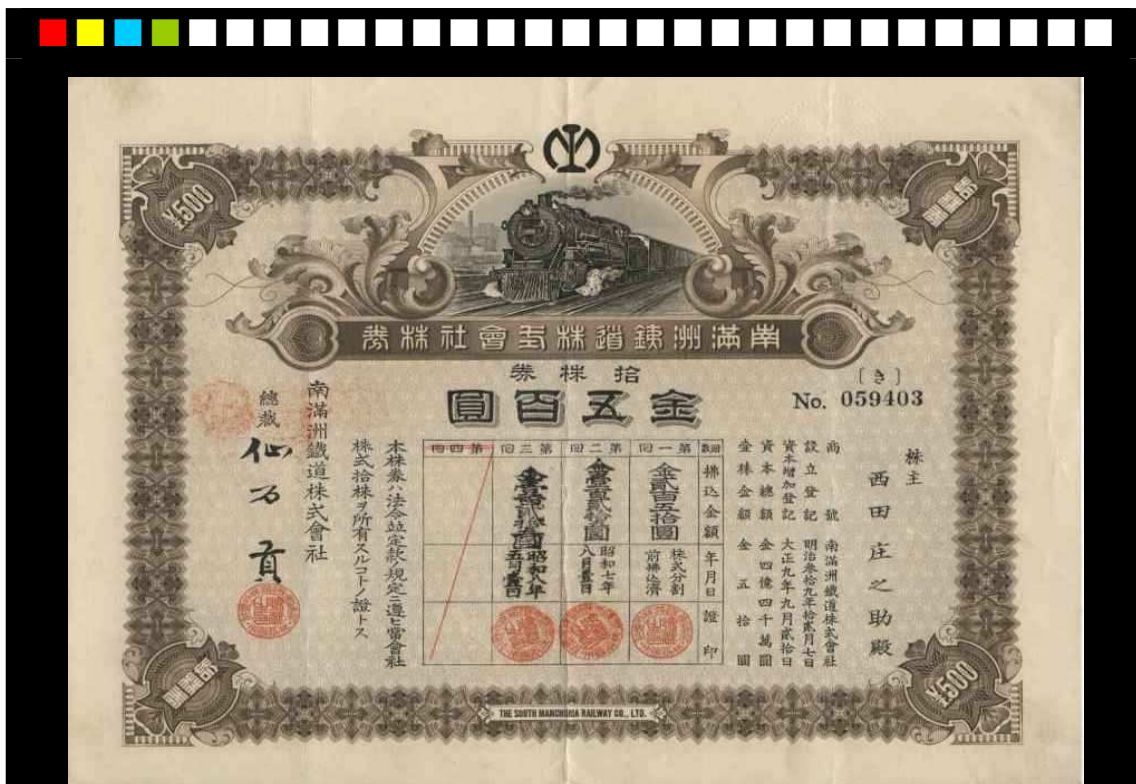
4月13日、満鉄に関する清算及び登記を終了

⁸³ 股東

⁸⁴ 投降

⁸⁵ 交出

满铁总裁签发的股票



第 11 任总裁仙石贡签发的满铁股票 (1929.8-1931.6)



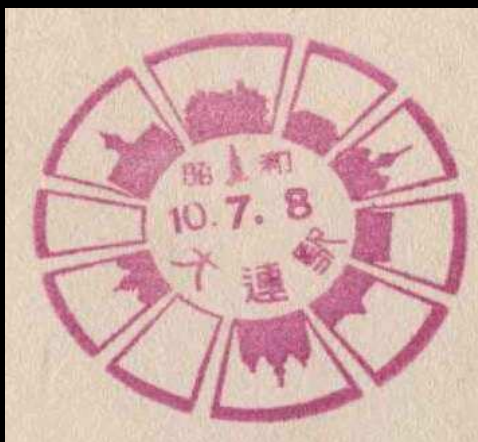
第 15 任总裁大村卓一签发的满铁股票 (1939.3-1943.7)

资料来源：日本南满州铁道资料室 许勇 编译

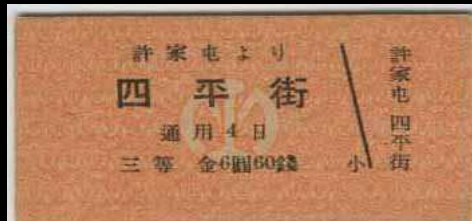
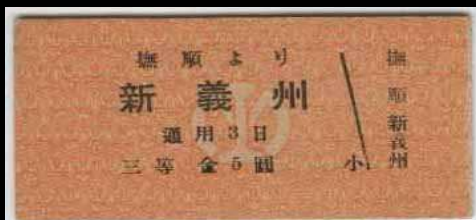
满铁时期使用的物品



★ 满铁合作社盛寿司的盘子



★ 满铁大连站的图章



★ 满铁旅客列车车票（上）

★ 刻有满铁徽标的怀表（下）



资料来源：日本南满州铁道资料室 许勇 编译

滿鐵 DE 列車時刻表

許勇 輯注



連京 ⁸⁶ 線 (上り ⁸⁷) ・ 京濱 ⁸⁸ 線 (下り ⁸⁹)												
		2等 運賃 ⁹⁰	3等 運賃	特急 ⁹¹ あ じ あ	急行 ⁹² は と	急行 ひ か り			急行	急行		
釜山	発					19:55						
大連	"	円 銭	円 銭	10:00	10:30		11:00	13:40	17:50	21:00	22:00	23:00
沙河口	"	0.20	0.05		10:37		11:08	13:49	17:58	21:08	22:09	23:10
周水子	"	0.25	0.15		↓		11:17	13:59	↓	21:15	22:20	23:22
金州	"	0.90	0.50		11:01		11:49	14:34	18:23	21:36	22:56	23:59
卅里堡	"	1.55	0.85		↓		12:23	15:13	↓	↓	23:36	0:44
普蘭店	"	2.20	1.20	↓	11:41	↓	12:50	15:42	19:04	22:19	0:07	1:16
瓦房店	"	2.95	1.65		12:11		13:28	16:24	19:34	22:50	0:52	2:05
松樹	"	3.65	2.05		↓		14:00	17:01	↓	↓	1:29	2:42
熊岳城	"	5.00	2.75		13:13		14:56	18:09	20:37	23:57	2:37	3:53
沙崗	"	5.55	3.10		↓		15:21	18:37	↓	↓	3:05	4:22
大石橋	着	6.70	3.70	12:50	14:01		16:04	19:27	21:25	0:46	3:54	5:15
海城	発	7.60	4.20	↓	14:34	↓	16:53	20:24	21:59	1:22	4:51	6:13
湯崗子	"	8.20	4.55		14:53		17:19	20:55	22:18	1:42	5:22	6:45
千山	"	8.50	4.70		↓		17:31	21:09	↓	↓	5:36	6:59
鞍山	"	8.60	4.75		15:06		17:40	21:20	22:31	1:56	5:46	7:10

⁸⁶ 大連～新京（长春）

⁸⁷ 上行

⁸⁸ 新京～滨江

⁸⁹ 下行

⁹⁰ 票价

⁹¹ 特快

⁹² 普快

遼陽	"	9.30	5.15		15:29		18:14	21:59	22:56	2:21	6:25	7:49
蘇家屯	"	10.65	5.90		16:09	17:05	19:14	23:00	23:38	3:03	7:28	8:53
渾河	"	10.85	6.00		↓	↓	19:25	23:10	↓	↓	7:40	9:05
奉天	着	11.10	6.15	14:42	16:24	17:20	19:35	23:20	23:50	3:18	7:50	9:15
奉天	発	円 銭	円 銭	14:47	16:30	17:30		23:35	0:05	3:25	8:05	9:30
鐵嶺	"	2.00	1.10		17:28	18:31		1:58	1:42	4:30	9:35	11:01
開原	"	2.95	1.65	↓	17:56	19:00		2:50	2:24	5:01	10:18	11:44
昌圖	"	3.80	2.10		↓	↓		3:40	3:07	↓	11:00	12:26
四平街	"	5.30	2.95	17:00	19:09	20:14		5:12	4:25	6:17	12:16	13:42
公主嶺	"	6.80	3.75	↓	19:54	21:02		6:32	5:37	7:09	13:35	15:02
新京	着	8.55	4.75	18:20	20:45	22:00		8:00	7:00	8:10	15:00	16:30
新京	発	円 分	円 分	18:30		0:00		9:20	7:15	8:20	15:20	22:05
?門	"	2.45	1.50	19:47		2:20		11:00	8:37	9:41	16:54	0:58
雙城堡	"	5.80	3.50	21:43		5:40		13:59	10:50	12:08	19:36	5:10
哈爾濱	着	7.30	4.40	22:30		7:18		15:03	11:42	13:00	20:50	6:35
濱江	着	7.35	4.45			7:43		15:18	12:00	13:23	21:13	6:67

連京線 (下り) ・ 京濱線 (上り)

		2等 運賃	3等 運賃		急行 は と	急行 ひ かり		特急 あ じ あ			急行	急行
濱江	発	円 分	円 分	17:10					6:66	16:50	22:55	18:45
哈爾濱	"			17:20		23:30		10:00	8:10	10:45	17:10	19:10
雙城堡	"			18:42		2:14		10:53	9:38	12:06	18:07	20:09
?門	"			21:27		4:58		12:47	14:55	14:39	20:21	22:35
新京	着			23:00		7:10		14:00	17:30	16:20	21:36	23:50
新京	発	円 銭	円 銭	23:40		8:00	10:00	14:10	15:40	16:40	21:50	0:00
公主嶺	"			1:16		9:01	10:53	↓	17:03	18:03	22:57	1:45
四平街	"			2:40		9:53	11:42	15:35	18:16	19:19	23:52	3:10
昌圖	"			4:03		↓	↓		19:33	20:36	↓	4:47
開原	"			4:42		11:01	12:49	↓	20:08	21:12	1:14	5:34
鐵嶺	"			5:30		11:31	13:20		20:54	21:59	1:51	6:30
奉天	着			7:05		12:28	14:13	17:40	22:20	23:25	2:57	8:10
奉天	発	円 銭	円 銭	7:20	12:20	12:40	14:19	17:45	22:40	23:40	3:05	8:30
渾河	"			7:32	12:31	↓	↓	↓	22:51	23:51	↓	↓
蘇家屯	"			7:45	12:43	12:57	14:38		23:04	0:03	3:23	8:48

遼陽	"			8:49	13:45		15:15		0:10	1:10	4:07	9:25
鞍山	"			9:28	14:21		15:38		0:46	1:46	4:33	9:48
千山	"			9:37	14:29	↓	↓		0:54	1:54	↓	↓
湯崗子	"			10:10	14:43		15:52		1:08	2:08	4:50	10:03
海城	着			10:40	15:09		16:11		1:36	2:35	5:11	10:23
大石橋	発			11:35	15:57		16:45	19:38	2:25	3:25	5:48	10:57
沙崗	"			12:27	16:39		↓		3:17	4:13	↓	↓
熊岳城	"			12:58	17:05		17:35	↓	3:48	4:41	6:45	11:49
松樹	"			14:14	18:31		↓		5:04	5:53	↓	↓
瓦房子	"			14:54	19:07		18:41		5:45	6:30	8:02	12:56
普蘭店	"			15:28	19:36	↓	19:03	21:33	6:21	7:04	8:29	13:19
三十里堡	"			16:00	20:03		↓		6:55	7:36	↓	↓
金州	"			16:34	20:32		19:44	↓	7:31	8:09	9:11	14:00
周水子	"			17:11	21:03		↓		8:10	8:46	9:38	↓
沙河口	"			17:19	21:10		20:09		8:19	8:54	9:45	14:25
大連	"			17:25	21:15		20:15	22:30	8:25	9:00	9:50	14:30
釜山	着					12:05						

旅順線 (上り)

		2等 運賃	3等 運賃									
旅順	発	円 銭	円 銭	7:00	9:20	11:00	12:25	15:10	17:35	19:40	21:00	
周水子	"	1.45	0.80	8:17	10:32	12:07	13:32	16:31	18:56	20:47	22:07	
大連	着	1.70	0.95	8:30	10:45	12:20	13:45	16:45	19:10	21:00	22:20	

旅順線 (下り)

		2等 運賃	3等 運賃									
大連	発	円 銭	円 銭	8:50	10:20	13:20	14:45	16:35	17:30	20:50	22:50	
周水子	"	0.25	0.15	9:08	10:37	13:38	15:02	16:52	17:47	21:07	23:08	
旅順	着	1.70	0.95	10:15	12:00	14:45	16:10	18:15	19:05	22:20	0:15	

资料来源: 日本满铁相关网页